



桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2014-2015年度 国際ロータリーのテーマ

2014年



クラブ会報・情報委員会

LIGHT UP ROTARY

R.I 会長 **ゲイリー C. K. ホアン**

善意というものがないなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー **前原 勝樹**

会長 **坪井 良廣** 幹事 **須永 博之**

後藤圭一・桑原志郎・塚越平人・吉野雅比古・立澤俊明

12月1日号

第2923回例会

(11月17日(月)第3例会)

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1. 点 鐘 | 6. 委員会報告 |
| 2. ロータリーソング斉唱 | 7. 卓 話 「地域経済の近況と今後の見通し」 |
| 3. 来訪者紹介 | 横山 勝則 君 |
| 4. 会長の時間 | 8. 点 鐘 |
| 5. 幹事報告 | |

ようこそピジター

前橋東 RC 八木 寛治 君

会長の時間

建物の窓ガラスが割れたまま放置していると、やがて他の窓もすべて割られてしまう…。これはアメリカの犯罪学者、ジョージ・ケリングが提唱した「割れ窓理論」という考え方です。1980年代のニューヨークはアメリカ有数の犯罪都市でしたが、94年にジュリアーニ市長が「家族連れにも安心な街にする」と宣言しました。このケリングを顧問にし、「割れ窓理論」を応用して治安対策に取り組みました。地下鉄の落書きを完全に消すなど、街全体を徹底的にきれいにしたところ、それに伴って治安も良くなっていったそうです。考えてみると、いつもゴミ一つ落ちていないディズニーランドでは、誰もゴミをポイ捨てしようとはしません。人間は、このように他人や環境にとっても影響されやすいものなのです。そこで、自分の運がいいと思った人は運が良くなる。逆を考えると、運が悪いと思った人は運が悪くなります。「旅は、どこへ行くかより、誰と行くかが大事」という言葉があるように、人生も誰とどう過ごすかが大事です。自分が変わりたいければ、まず、環境を変えたり、つき合う人を変えること。運をよくするには、運がいい人とつきあうこと。私も皆さんも、桐生ロータリークラブの会員で良かったですね。

(報 告)

- ・11/10 定例理事会
- ・11/16 RAC 拾う街っく天国
会長・幹事・村田ハスト幹事・大友ハスト幹事
水越君 出席
RLI パート 堀会長エレクト出席

(予 定)

- ・11/24 勤労感謝の日振替休日の為、休会
- ・11/30 ゴルフコンペ 赤城カントリー倶楽部にて

幹事報告

- ・ガバナー事務所より「茶の湯研修会」のご案内が届いております。
- ・米山奨学奨学会より「ハイライトよねやま」が届いております。
- ・日本てんかん協会より「からっかぜ」が届いております。
- ・群馬大学理工学部長より、先日の理工学部外国人留学生との懇談会のお礼状が届いております。
- ・東日本観光様より「2015年国際大会のご案内」が届いております。
- ・桐生赤城RCより週報到着。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成26年11月17日)
総員64名:出席34名
平成26年10月27日例会修正出席率:89.09%

ニコニコボックス

北川洋君、園田誠君…結婚祝 / 前原勝君、石島久司君…誕生祝 / 柳明彦君、大島千賀子さん、田中一枝さん…写真を戴きました

S.A.A

次回例会より、沢山の方々と懇親を深める為席をくじ引きで決めさせていただきます。ご協力お願い致します。

卓 話



「地域経済の近況と
今後の見通し」

群馬銀行桐生支店
執行役員 支店長
横山 勝則 君

吉田栄佐プログラム委員長から卓話をせよとの強い要請がありましたので、渋々ながら引き受けさせていただきました。人前で話すことも、「経済」という固い話も苦手ですので、上手に話せるか心配ですが、しばらくお付き合いを願います。

まずは、日銀の追加緩和の話題から。10月31日に日銀が追加緩和を発表し、マーケットは円安・株高に大幅に振れました。アメリカのFRBが量的緩和の終了を決めた2日後という、正に絶妙のタイミングで電撃的に発表したということでマーケットに大きなインパクトを与えました。背景としては、原油安などから足元の物価上昇が鈍化しており、放置すると将来の物価上昇にも影響し「デフレマインドからの転換が遅れる懸念があった」と、黒田日銀総裁はコメントしています。追加緩和の骨子としては、資金供給量、マネタリーベースを年10~20兆円増やし80兆円に拡大する。長期国債の買入れ量も30兆円増やして80兆円にする。また、買入れる国債の残存期間を最大3年拡大し、残存時間を7年から10年程度へと伸ばす。上場投資信託、ETFと不動産投資信託、REITの購入量を3倍に増やす。という内容で、昨年4月に導入した「量的・質的金融緩和」を両・質の両面で拡充するものであります。狙いは先行きの期待マインドを改善することで消費拡大だと思います。ここで注意しておきたい点は、この追加緩和は黒田日銀総裁が掲げる物価上昇率2%という命題に対応する施策であるということ。第2に、マーケットの先行き期待に働きかける施策だということで、直接的に景気上昇に繋がるものではないということです。「アベノミクス」による景気押し上げにもたつき感がある中で、予想外の緩和策を繰り出し、マーケットの先行き期待に働きかけ、長期金利の水準を一段と押し下げのほか、リスク資産の購入を拡大し、株式や不動産などの資産価格を押し上げる狙いがあります。資金供給の拡大はもう一段の円安にもつながりそうです。実は、同日に年金積立金管理運用独立行政法人、GPIFの運用方針変更の発表が行われ、GPIFが海外資産や日本の「債券買い・株買い」という海外投資家が期待していた「ダブルバズーカ」が実現し、同日のマーケットは、日経平均株価16,413.76前日比+755.56の上昇、+4.83%の上げ幅は6年ぶりの大きさでした。円・ドルの為替相場は111.22~23でひけ、前日比2.05の円安と、大幅な円安・株高となりました。その後のマーケット状況はご案内の通りです。桐生ロータリークラブ会員の皆様の中にも随分と儲けられた方がいらっしゃるのではないのでしょうか？この日の日銀の金融政策決定会合では、中長期の経済見通しを示す「展望レポート」も発表されましたが、政策委員9人の物価見通しの中央値は15年度で1.7%、16年度にかけ2%の物価上昇を維持するというシナリオが維持されております。

7月時点の見通しよりは、0.1~0.2%引き下げた格好で、14年度が1.3 1.2へ15年度が1.9 1.7へ。16年度は据え置かれました。実質GDP成長率は14年度で1.0 0.5へ15年度は1.5で据え置き、16年度は1.3 1.2引き下げております。

さて、日銀の追加緩和を報じた11月1日の新聞に、7-9月期のGDP成長率の民間予測が平均で年率1.9%と出ておりました。大和総研他12社の平均ですが、1~2.8%とバラツキがあり12社の平均で1.9%ということです。消費増税後の景気回復が鈍かったとの見方で、夏の天候不順もあり、個人消費の持ち直しが弱かったとするもので、我々の実感とも合うものだと思います。次期の10-12月期からは2%台の成長が続くとの見通しも併せて示されております。7-9月期のGDP成長率の速報値は本日17日に発表されます。安倍総理が消費税の再増税を検討する資料として注目されている指標です。GDP成長率の推移をみると、年率で13/10-12月期が0.7%、14/1-3月期は6.7%と消費増税前の駆け込みが数値を押し上げました。4-6月期は7.1%。これは当然に消費増税後の反動。この数値は東日本大震災直後の落ち込み6.9%を超える大幅な減少でありました。7-9月期の民間予測が1.9%と続きます。GDP成長率はプラスに転じたものの景気の足元は弱く、もたつき感がある状態かと思えます。

さて、弊行ではグループに一般財団法人群馬経済研究所というシンクタンクを持っており、ここで「ぐんま経済」という報告書を毎月刊行しております。ここからは、この報告書からお話させていただきます。

まず、4月の消費税増税の影響についてふれてみたいと思います。前回の消費税は97年に+2%だったわけで、これを基準にみなさん考えておられるわけですが、今回は「想定通り」だったとの声が多く聞かれました。しかし、GDP統計の民間最終消費支出をみると、1-3月期+2%、4-6月期5.1%という数字はエコノミストの予想を超えるものでした。結果、消費税の影響は「想定」以上に大きかったと云えます。特に反動の大きさは今回が前回は大きく上回っていました。要因は所得効果と思われ。今回の消費税は価格転嫁が比較的スムーズに進んだこともあって想定以上に早い段階で、税率引き上げに伴う実質所得の減少が消費の下押しに繋がっている可能性があるということです。

次に「群馬県内企業動向調査」についてお話をします。研究所では、3ヶ月に1度調査を実施し報告をしております。直近の調査は、9月上旬に実施され11月号で報告しております。調査対象企業は県内1020社、うち回答社数458社。調査期間は7-9月期実績、10-12月期の見通し。DIを用いて企業経営者の景況判断を調査するものです。DIは、デフュージョン・インデックスの略で好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標です。この調査によると、消費税の駆け込み需要の反動減が弱まりつつあることなどから、7-9月期の業況判断DIは5.5と2期ぶりの「好転」超となりました。内訳では、生産・販売DIが「増加」超に転じ、製商品価格DIは小幅ながら上昇。原材料価格DIは若干低下したが、依然「上昇」が「低下」を大きく上回っている。なお、人員

判断では「不足」が大幅に増へ、設備投資ではわずかながらも「増加」が「減少」を上回りました。業種別にみると、製造業の DI は 4.0。生産面の持ち直しで、電気機器・輸送機器・金属製品・一般機械・繊維などが改善した。一方、食料品は原材料価格高騰などにより「悪化」超に転じ、木材木製品は依然マイナス。非製造業の DI は 6.5。小売業では前期に比べ駆け込み需要の反動で落ち込んだ販売が持ち直したことなどから DI は水面下ながら大幅に上昇した。卸・建設・サービスの 3 業種は受注・販売面の持ち直しでプラスに転じました。10 - 12 月期見通しの業況判断 DI は 8.2 と 7 - 9 月期に比べ小幅ながら上昇しております。製造業では窯業土石・輸送機器・金属製品がプラスで、木材木製品・電気機器はマイナス。非製造業では、卸・小売・建設・サービスの 4 業種全てでプラスとなっている。また、「経営上の問題点」をみると、「原材料値上がり」や「売上・受注の停滞・減少」が多く、回答の多い業種をみると、「原材料値上がり」では、木材木製品・食料品・繊維・窯業土石・金属製品など。「売上・受注の停滞・減少」では、木材木製品・食料品・窯業土石・その他製造業。木材木製品・食料品・窯業土石は両方の項目に入っており、経営環境の厳しさが窺えます。以上が直近の調査結果です。

次に、別の切り口から「ぐんまの経済概況」というのも発行しております。直近は 10 月 20 日発行のものですが、これによると、概要とすると、群馬県内の景気は緩やかな回復基調にあるものの足元はやや鈍化している。個別にみると、消費では 8 月の大型小売店販売が前年同月比+1.4%と 5 ヶ月ぶりで増加。9 月の乗用車販売台数は前年同月比+2.0%と 2 ヶ月ぶりのプラスに転じました。内訳では、普通車・軽自動車とともにプラス、小型車はマイナス。観光の動向として、世界文化遺産の「富岡製糸場と絹産業遺産群」では 4 資産合計の観光客数が 9 月は前年同月比 4.9 倍と大幅に増加。8 月の県内主要温泉地の宿泊客数は前年同月比+3.7%と 3 ヶ月ぶりのプラス。建設投資では、8 月の新設住宅着工戸数は前年同月比 16.9%と 5 ヶ月連続のマイナスとなったほか、企業設備投資が 2 ヶ月連続で前年を下回った。9 月の公共工事は前年同月比+14.5%と再び前年を上回った。生産面では 8 月の鉱工業生産指数が前月比低下したものの高水準で推移しているという内容です。

以上色々とお話してきましたが、整理しますと、群馬県内の景気はプラスながら足元が弱く景況感の持ち直しは鈍い。今後の見通しは緩やかな成長が継続していくとみられる。不安要素としては、日銀の追加緩和により改善されたマインドがアベノミクスの成長戦略という第 3 の矢で実体経済へとバトンタッチしていかないと失速してしまう怖れがあることで、安倍総理にしっかりお願いしたいところです。

**桐生ローターアクトクラブ
拾う街っく天国
11月16日(日)**

桐生ローターアクトクラブ企画の桐生市内の清掃活動が開催されました。天気も良く、会長、幹事、村田君、大友君、水越君が参加してくれました。ローターアクトクラブ、インターアクトクラブの皆様と一緒に桐生市の名所や観光スポットを巡り、クイズを解きながら楽しくゴミ拾いを行いました。



【例会予告】

12月8日(月) 卓話 新会員卓話
荒木千恵子 さん
大島千賀子 さん
田中 一枝 さん

食事 志多美屋

15日(月) 家族合同忘年クリスマス会
点 鐘:午後6時30分
場 所:桐生プリオパレス

22日(月) 10/16 桐生 5RC 合同例会に
振替の為休会

29日(月) 休 会

2015 年

1月5日(月) 初例会

12日(月) 成人の日(祝日)の為休会

19日(月) 卓話
桐生商工会議所
会頭 山口 正夫 様

26日(月) 卓話
米山奨学生
ファン ミン チエン 君